

社長参謀通信

皆様の周りにこの通信が役立つような方がいらっしゃればご紹介頂ければ幸いです。

2013年1月

2013年 今年のテーマ「脱皮と成長」

新たなステージへ

皆様にとって2012年はどんな一年だったでしょうか。そして、2013年はどんな年にしたいと考えられていますでしょうか。

私自身2012年は「整える」というテーマを掲げて一年を過ごしてきました。整えるべき第一は、自分の「心」です。これまでは目先の損得、よく思われたい、といった私利私欲が頻繁に顔を出すなど邪心に振り回されていたといってもいいでしょう。自分では相手のことを考えているつもりでも、はっと気がつくとう無意識のうちに自分の利益を優先してしまうということに何度となくありました。

自分の利益と周りの評価を軸に動いているようでは、心が常に揺れ動き、泰然自若などといった人として目指すべき姿など、夢のまた夢といったところです。中国古典や日本の幕末期の偉人の言葉を自分の心を照らしてみると、少しずつ心のコントロールの仕方が分かってきたように思います。

身体面でも10月より朝晩の体重測定を励行、体重管理と運動を強化し、飲み会が続く中でも体脂肪と体重を減らし、血液検査による肝機能の数値も健全化し、心身ともに良い方向にもってこることが出来ました。

2013年は、この軌道を維持しつつ、古き悪習を捨て、新たな成長ステージに入っていきたいと考えております。よって来年のテーマは「脱皮と成長」。運氣も向上する年回りになってきたようですので、慎重さを大事にしつつチャレンジを積み重ねて行きたいと思えます。

目次

1. 新たなステージへ
2. 2012年の学び
3. 新たな「志」を
4. 2013年行動計画成
5. 今月の古典「座右の銘10選」
6. 楽しみながら健康増進
7. 編集後記「グルメレポート」



モットー

社長参謀として社長の“夢と悩み”を共有し、
人材の育成と経営のしくみづくりを通じて、
会社と社員とのWINWINの関係を作り会社の成長を加速させます。

発行人 三村邦久

「2012年の学び」

2012年は内部充実を

ここ数年間、試行錯誤を繰り返し、自分のアイデンティティをリセットする作業にもがいて来ました。2012年のテーマは「整える」とし、成果を求めず次のステップに向けての準備をする年と位置づけました。

先ずは、「心を整える」、「身体を整える」、「仕事の戦略を整える」、「ネットワークを整える」など結果を求めず、内部充実に努めてきました。そこでかなりの事を学んだと思います。

学び(1) 欠点を受け入れる

他人の欠点は何かと気になるもの。自分の欠点を直視することも容易ではありません。自分の欠点を受け入れないと、人の欠点も受け入れることができません。まず、自分の欠点を受け入れ、その後相手を受け入れる。

人は生きていれば文句なし。あとは全て受け入れる。公私ともにギリギリの体験で、そんな学びの機会を得ました。

学び(2) 天に任せる

自分の生死や成功は自分の一存で決められるものではありません。「人事を尽くして天命を待つ」、できることはこれしかないのでしょうか。

目先の損得、人の評判や名声などは得たいと思えば思う程、遠のいて行くものようです。

人生は、努力が半分、天命が半分。

足るを知る者は富む。そう考えて、自然の流れに身を任せていくのも悪くなさそうです。

そして「啐啄同時」(そったくどうじ) これは、機を得て両者相応じる得難い好機のこと。親鳥の啄が一瞬でもあやまると、中のヒナ鳥の命があぶない、早くてもいけない、遅くてもいけない。物事にはタイミングが大事、じっと好機到来を待つことの大事さが少し分かったような気がします。

学び(3) 志のたて方

私が学んでいる佐藤一斎「言志四録」にはこんなことが書かれています。

◆本心の好むところに従う

四書五経を学ぶとは、心を養うことである。学ぶと性格が変化する。これが立志、つまり「生きる力」を生み出すことに他ならない。志は強制するものではなく、本心の好むところに従えば良い。志をたてる効果は、恥をしること、つまり人を敬い自分の至らないことを知ることができる事である。志とは世界平和などといった大きなことでなくても、ただ立派な人間になることも立派な志である。

◆志は雑音をカットする

周囲からの雑音に悩まされる時、志を剣の如くすれば、雑念を一切排除できる。大きな志を持って、小事を疎かにしてはならない。強い志を持っていれば、どんな雑務も学びとなり血となり肉となる。志があれば鋭い刃物のようにだが、志がなければ子供にも笑われる。

◆志を持続することは難しい。

思う様に行かないときに、いらいらしたり怒りを爆発させるのは志の弱い病気である。自分を恥じて、自分に怯える。四書五経をもって自らを戒める。

◆辛酸なめて志固し

西郷南洲(隆盛)はこんな言葉を残しています。苦勞したり失敗したり、誹謗中傷や悲観を受けるなど辛酸をなめることで、志がより強固なものとなる。



誰でもそんな体験はあるでしょう。苦しい時期に深い根を張って、強風が吹こうとも決して倒れない骨太な人間になれるということです。

私自身、これまでの人生を振り返ってみても、山谷があります。ここ数年の経験を志を強化するエネルギーとしたいと思います。

新たな「志」を

2013年は大きな節目の年となります。

社会人になって30年。27歳で中小企業診断士資格を取得し、経営コンサルタントの業界に転身して25年を迎えます。同時に結婚して25年を迎え、世間では銀婚式ということになります。自分では未だに青二才だと思っておりますが、それなりの年月を生きてきた事になるようです。そして、長女が大学を卒業、就職して自立の道を歩んでいくこととなります。

これまでは、自分の成長と家族の生活を守ることを念頭に日々を過ごしてきましたが、これからは新たな立ち位置で毎日を過ごして行くこととなります。

五十にして天命を知る

50歳を超えれば定年まであと10年、サラリーマンなら最後の締めくくりの段階に入ってきます。会社によっては若手に場を譲り、半リタイヤ状態に追い込まれるところも少なくないようです。しかし、平均寿命80歳超のこの時代、50歳は新たなスタートの時期でもあります。では、どうすれば良いのか。論語に有名な一節があります。

論語(為政第二の四)

◆書き下し文

子曰わく、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順(した)がう。七十にして心の欲する所に従って矩(のり)を踰(こ)えず。

◆現代語訳

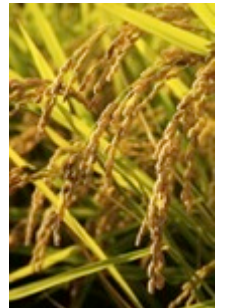
孔子は「私は15歳の時学問を志した。30歳の時に学問で身を立てる事が出来るようになり、40歳で学問に対する迷いがなくなり、50歳の時に自らの天命を知った。そして60歳の時には人の言葉を偏見無く聴く事が出来るようになり、70歳になったら自分の心のままに行動しても人道を踏み外す事が無くなった。」

50歳になって天からの命ずるところに従い、新たな志をたてて、使命感をもって生きる年であるといっています。孔子は紀元前2000年頃の人で、平均寿命は今とは比較になりませんから、50歳台は老け込む年ではないのです。さらに60歳、70歳とまだまだ成長の余地があり、楽しい時間が待っているのです。

自分の天性を活かす

仕事は金を儲けることが目的なのかもしれませんが、どうも私は金儲けの才はないようです。経営コンサルタントとしては大きな問題でしょう。しかし、世の中にはお金儲けの才のある人はいますから、その人に頑張って頂いて、いい会社、いい組織、立派な人をつくることのお手伝いをする事に集中したいと思います。これらのテーマは、一夜漬けで出来ることではなく、長期戦になります。

これは私が幼少期から携わってきた、米を育てるのに似ていると思います。牛を飼い肥料をつくり土地を肥やし、土地を耕し種を蒔き、成長の邪魔をする雑草を取り除き、水と肥料を与える量とタイミングを計り、台風や干ばつがこないことを天に祈り、成熟の機を逃さず刈り取る。こんな地道な作業を丹念に積み重ねる仕事をしていきたいと思っています。



「正心誠意：人の幸せを全てに優先する」

お客様である社長・管理職・社員、ひとり一人が幸せな人生を送るために、その人にとって何が必要か。

そこを軸に動いて行きたいと思っています。人に好かれるかどうかとか、評価されるかどうか、は考えずに、ただただ心を正してその人が幸せになれる様に考え、発言し行動して行きたいと思っています。

2013年行動計画

志「人の人生を素晴らしいものにする」

これを基本指針としながら、何をしているのか。会社、組織、ひとり一人の人が、脱皮し成長していくことを促進していきたいと考えています。具体的には次の2つのテーマを考えています。

①会社組織の脱皮と成長の促進

1) 世代交代、体制転換の促進

経営者の「社長参謀」として、社長のあり方、組織変革、事業戦略づくり、管理職はじめ人材育成などを支援していきます。私の周りには次の世代を育てなければならない方、社長になって間がなく新体制を固めなければならない人、これから社長にならなければならない人が多数いらっしゃいます。

会社や社長は十人十色、事業内容も社風も社長や社員の人の柄も全く違います。よって決まった手法は通じません。それぞれの会社や社長にあった処方箋が必要になります。

これまで経営コンサルタント25年の経験で培ったものを活かして、それぞれに最適なご指導をさせて頂きたいと思っております。

2) 新たな事業分野への進出支援

縮小している日本経済のなかで過去の延長の事業内容では将来に展望が持てない会社が少なくありません。新分野進出、海外進出等新たなチャレンジが必要不可欠です。新市場調査、事業計画づくり、事業立ち上げができる人材が不足している会社が少なくありません。そんな場合、プロジェクトメンバーの一員として一緒に汗を流し、可能性を追求していく活動をして行きます。

3) 「愚直な会社」のブランド化

地味で社会に自分の会社の良さをPRする場の少ない会社出版という形を通じて、それぞれの会社の物語を伝えて行きたいと思いま

す。中小企業の多くは地味で愚直に経営をされています。学生始め一般の人は知名度や年商など、表面的なことだけで会社の判断をします。その会社のなかでの営みを垣間みることが出来ません。それぞれの会社には、立派な人がいて、他にはない胸を張れる素晴らしい物語があるのです。しかし、大企業のようにお金をかけて宣伝広告することもできません。出版を通じて社外での認知度が上がり、人材採用や営業活動のみならず、社員の士気や愛社精神の高揚、そして社長自身が自分の経営指針をより強固なものに繋がる効果が期待できると考えています。

②人の脱皮と成長の促進

1) 持ち味を活かす働き方研修（職場内）

仕事を楽しみ、没頭して成果を出して、個人も会社もハッピーになる。これが理想です。仕事を楽しくする秘訣は自分の天性（持ち味）を活かして誰にも負けない働き方をすることです。そのためには社員ひとり一人が自分の持ち味に目覚める。互いの持ち味を良く知った職場の仲間と一緒に学び、気づき、成長していく研修を提供していきます。

2) 中国古典に学ぶリーダー育成

中国古典を基礎として東洋型のリーダー育成プログラムを創造していきます。組織はリーダーで決まりますが、どうすればリーダーとして人間力が身に付くのでしょうか。実務経験を積む、修羅場を経験することは大事なことです。しかしそれだけでは十分ではないでしょう。リーダーとして尊敬される人格を身につけるには、中国古典が最適です。これまで学んできた中国古典で自分自身でも心が正され、覚悟ができてきたように思います。それを仲間と共に新たなプログラムを確立させて行きます。

三村自身の持ち味を活かして、他の人ではできないサービスを提供していきますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

今月の古典「座右の銘 10 選」

これまで2年強学んできた古典、自分の座右の銘となるものを10個選んでみました。

①人の使命とは(中庸)

天命之謂性，率性之謂道，修道之謂教。

天の命によって与えられたものを性（天性、人間性）といい、その天性に従うことを道という。

<三村の解釈>

人は自分の意志で生まれることも死ぬ事も出来ません。すべて天（宇宙・自然）が決めることです。性格も身体的特徴も生まれてくる環境も自分で選択できるものではありません。だから、人と比較したりせずに、自分の持っている特性（持ち味）を最大限に活かす努力をすることが、人としての生きる道だといえるのではないのでしょうか。



②人生の楽しみとは(孔子)

学びて時にこれを習う、亦(また)説(よろこ)ばしからずや。朋(とも)有りて遠方より来たる、亦(また)楽しからずや。人知らずして慍(うら)みず、亦(また)君子ならずや。

学んだことを時に復習するのはより理解が深まり楽しい事だ。友人が遠くから訪ねてくれて学問について話合うのは喜ばしい事だ。他人に理解されなくとも気にしないと言うのはとても立派な事だ。

<三村の解釈>

これは論語の冒頭文であり、人生の極意を示しているように思います。学び実践し日々成長する。仲間が遠方から集って一緒に語り合い学ぶ。そして周りの雑音に惑わされず自分の信ずるところに従い行動する。なんと素晴らしいことでしょうか。こんな人生を送りたいと心から思います。



③志とは(吉田松陰)

「かくすれば かくなるものと知りながら やむにやまれぬ 大和魂」

<三村の解釈>

吉田松陰は諸外国が日本に開国を迫り不平等条約を次々と結び、お隣の清国ではアヘン戦争を仕掛けられ半植民地化されたことを憂いで、居ても立っても居られなくなりました。その後無謀とも思える行動により安政の大獄で処刑され、享年30歳の若さでこの世を去りました。そうなることは彼自身予想ができた事ですが、日本を守らなければならないという押さえきれない強い感情につき動かされたのです。これこそ、本当の志と言えるのではないのでしょうか。

④勇氣はどこから生まれるか(孔子)

内に省(かえり)みて疚(やま)しからずんば、夫(そ)れ何をか憂え何をか懼れん。

自らの行いを反省してやましいことがなければ、一体何を心配したり恐れたりする必要はあるだろうか。

<三村の解釈>

世渡りのスキルとして「長いものに巻かれる」という方法は、弱者にとっては幸せに生きるための処世術といえるでしょう。しかし、正しくないことや理不尽なことに正々堂々と主張できない心の弱さは悲しいことです。それは「自分の弱みを突かれると困る、損はしたくない」などどこか自分に邪な心があるからです。是は是、非は非と明快に言うためには、自分の心と行いが正しいという自信に裏付けられた勇氣が必要なのです。

⑤卓越の秘訣(孔子)

知之者不如好之者、好之者不如樂之者。

これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。

<三村の解釈>

人も会社も優れた能力が未来を切り開いてくれます。ではどうすれば優れた能力を素晴らしい結果をもたらしてくれるのか？好きで楽しくて寝食を忘れてやっていることには誰も勝てません。これこそ人生成功の要諦でしょう。

⑥ビジネスの要諦(大学・孟子)

徳は本なり、財は末なり(大学)

先義後利(孟子)

<三村の解釈>

ビジネスは金儲けであって、道徳や正義と相反するものではないか。そんな考えもあると思います。しかし、道徳に反し、人として正しくないことは長続きしません。徳（人に最善を尽くす）、義（人として正しいこと＝人のために働く事）をすれば、自ずと報酬は与えられるものです。また、貢献に見合わない過剰な報酬はバブルであり、いずれは消えてしまうものです。また、自分の利益より先に相手の利益を考える。理屈は分かってはなかなか行動できないものです。誰でも出来ないものであるからこそ、やる価値のある事なのではないでしょうか。



自分を治めようとするならば、まず心を正しくせよ。心を正しくするには、誠意を持ちなさい。誠意を持つには知性や知恵を養いなさい。学び知性を養えば、人物としての形が整ってくるものだ。

<三村の解釈>

人や組織を治めたければ先ず自分を治めることから始めなければならない。自分を正しく制御できない者が人を制御できるはずがない。リーダーシップの原点がここにあるのではないのでしょうか。

⑨「家康型」リーダーの心得(老子)

與兮若冬涉川、猶兮若畏四隣、儼兮其若客、渙兮若冰之將釋、敦兮其若樸、曠兮其若谷、混兮其若濁。



古くからの「道」を十分に修めた人は、おずおずと冬の川を渡る様に慎重であり、びくびくと周囲を警戒する様に用心深くあり、きりっと威儀を正した客の様に厳粛であり、解けてゆく氷の様に素直であり、切り出したばかりの丸太の様に純朴であり、深い谷間の様に寛容であり、濁った水の様に曖昧である。

<三村の解釈>

リーダーは先頭に立って勇敢に戦うナポレオンのような姿を連想しますが、これは西洋流。東洋流のリーダーシップは、戦いを如何に避けて血を流さないか、臆病で慎重で用心深く、抜かりがない。そして大きな懐があつてとらえどころがない程の老獪さがある。そんな度量のある立派な人間になりたいものです。



⑦問題解決の秘訣(山田方谷)

それ善く天下の事を制する者は、事の外に立ち、事の内に屈せず。義を明らかにして利を図らず。～中略～



君子は其の義を明らかにして其の利を計らず。饑寒死亡を免ると免れざるとは天なり。

<三村の解釈>

数字をいくらじっても売上も利益も増えません。つまり業績を良くするためには、良い商品を開発し、多くのお客さんをファンにする以外方法はありません。このように問題の解決方法は結果とは別のところにあつて、問題の中に入って食われてしまつてはいけません。また、人事を尽くして天命を待つ。人として正しい行いに邁進する事だけに集中し、結果は人が制御できるものではないと、言い切っています。これが本当に謙虚で奢りのない正しいリーダーの姿勢だと思います。

⑧リーダーシップの原点(大学)

正心誠意致知格物。

⑩不朽の人生とは(佐藤一斎)

**少にして学ばば則ち壯にして為すこと有り
壯にして学ばば則ち老いて衰えず
老いて学ばば則ち死して朽ちず**

<三村の解釈>

解釈不要。ただただ、知行合一（真の知識は行動を伴うもの）。実践あるのみ！

楽しみながら健康増進

楽しくないと続かない

「時間がないから運動できない」、「付き合いがあるから食事の制限は難しい」などなど健康管理が出来ない言い訳は山ほどあります。しかし、健康管理の優先順位が低いだけのことでしょう。

私も約5年前からマラソンを始め、今では走ることが日常習慣になり、走らないと体が鈍って気分も重くなるほどです。今では肩こりも殆ど無く、胃薬を飲むことも皆無となりました。しかし、多くの方にとって、運動は三日坊主の典型ですが、如何に続けるか。

答えは一つ、「楽しくないと続かない」

富士山を見ながら走る

そもそもマラソンを始めるキッカケとなったのは、湘南国際マラソンという大会をテレビで見た事です。雪を冠した富士山を仰ぎ見、湘南海岸に沿って走るランナーを見て、「あんな風にできたら楽しいだろうなあ〜。」と思ったことでした。それぞれの土地の景色を味わいながら走るのは大きな楽しみです。

ところが、富士山を見ながら走るという夢は最近まで叶いませんでした。湘南国際マラソンに2度出場し、河口湖マラソンにも参加したのですが、いずれも雨又は曇り。5年経過してやっと富士山の絶景を見ながら走る事が出来



ました。右の写真は富士五湖の一つ山中湖を周遊するコースを16キロ走った時のものです。ところがその日は河口湖を走る富士山マラソンの記念すべき第一回大会だったので、道路渋滞でスタート時間に間に合わず、無念のキャンセル。即座に気を取り直し、自主開催「山中湖マラソン」として、富士山の絶景を独り占めしながら16キロを走り念願かないました。



大阪城を走る

出張先で走るのも大きな楽しみです。右の写真は、大阪で仕事を終え、幼稚園時代からの友人と焼き肉を食い北新地で語り、ホテルでの就寝は2時。朝は7時に起床。9時から大学の後輩3人と大阪城へ繰り出し、約8キロ走りました。ランニングを楽しみながら前夜のアルコールを抜きます。仕事、交遊、観光、健康と一石四鳥ぐらゐの感じですよ。

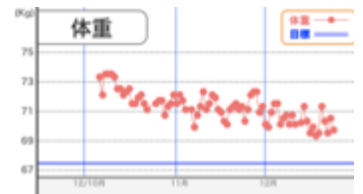


地図に記録を残す

GPS 付きの時計やスマホのアプリを使えば、距離、時間、速度、走ったコースの記録が残ります。世界地図に走行記録を残すのも楽しみの一つです。これまで、国内のみならずニューヨーク、北京、上海、広州、シンガポールでも記録を残しています。

朝晩体重を記録する

10月中旬から朝晩体重を測って記録をとっています。最近では便利なもので iPhone の体重管理アプリを使えば、体重の推移をグラフで示してくれます。経過を見ると上下を繰り返しながら体重が減って行くのが良くわかります。こんなことも楽しく続ける秘訣なのでしょう。



次は京都マラソン

東京、神戸、ニューヨークに続く大都市のマラソンは3月10日の京都。どんな体験ができるかレースになるか楽しみです。



編集後記 「グルメレポート」

出張の楽しみ

出張での楽しみは走ることだけではありません。土地土地の美味しいものを頂く事も欠かせない喜びです。特に、B級グルメ好きの私としては、高級店ではなく庶民が気軽に楽しめる地元の絶品料理に巡りあえれば至福の時間を過ごせます。

最近では、仕事も食事も運動も区別することなく、全て人生として楽しくやることを目指しています。てな訳で今回は上海と大阪、共に商都であり、美味しい食べ物が集まる場所の路地裏のレポートをしたためてみます。



初めての上海蟹

およそ20年前に始めて上海に行き、何度か行った上海ですが、初めて上海蟹を食べました。一つは「酔い蟹」といい、紹興酒につけたものでブランデーのような甘い香りがします。卵もみっちり詰まっています。殻も柔らかくなっており、パリパリとして美味です。口に頬張ると思わず、にっこりと笑みがこぼれてしまいます。



もう一つは、蒸し蟹。これも蟹味噌と身を絡めて食べると酒が止まりません。この上海蟹を食べたのは地元の有名店、富民路にある「保羅」という店です。観光客などいない完全ローカルで上海旅情満載でした。



この店へはインテリジェンス・アンカー・コンサルティングの総経理をされている金鋭さんに連れて行って頂きました。



金さんは、共通の友人を通じて知り合い、同じ兵庫県人ということで親近感が湧き、お邪魔して連れて行って頂きました。風邪を押しておつき合い頂き、こんな旨いモノを食べる機会を作って頂いて感謝です。

また、金さんの事務所を訪ねた際には、Welcome Boardで迎えてくださった中国人スタッフの心遣いにも感謝です。

大阪船場で絶品焼き肉

フェイスブックは大変便利で、古くからの友人との関係を復活させてくれます。田舎にいる友人の投稿で、故郷の様子もよく分かりますし、同時に私がどこに行っているかも友人は知っています。幼稚園時代からの友人がそれぞれがフェイスブックをやってお陰で、出張に併せて同窓会を大阪でやることになりました。



一人は大阪で働き、一人は故郷の兵庫県多可郡、そして私は横浜。そんな3人が集って、大阪鞆公園近くの「一笑」という焼き肉屋で5年ぶりぐらいに再会し、舌鼓を打ちました。いい友達、美味しい料理、楽しい会話、これらは人生を豊かにしてくれます。本当に有り難いものです。

株式会社アイパートナー

代表取締役 三村邦久 mimura@i-partner.co.jp

会社電話：045-477-2312 FAX:045-477-2324 会社HP：<http://www.i-partner.co.jp/>

〒 222-0033 横浜市港北区新横浜 2-1 7-1 1 アイシスプラザ 6階

メルマガ「モチベーション・マラソン」<http://archive.mag2.com/0000266839/index.html>

無断転載はご遠慮ください。